

第2回 買物公園のあり方検討会議 会議録

日時	令和5年6月29日(木) 14時30分～17時00分
場所	旭川市シニア大学 講座室
出席者	<p>参加者 13名 有馬 準氏, 草野 常幸氏, 久保 竜弥氏, 佐藤 真紀恵氏, 四戸 秀和氏, 鈴木 伸治氏, 鈴木 美央氏 (オンライン), 高橋 遼太郎氏, 長尾 英次氏, 中田 崇太氏, 蜂須賀 咲来氏, 林 亜優氏, 三浦 詩乃氏 (オンライン)</p> <p>オブザーバー 5名 北海道警察旭川方面本部交通課長補佐 中川 隆博氏 国土交通省北海道開発局旭川開発建設部 治水課流域治水対策官 結城 憲明氏 道路計画課道路調査官 秦 地大氏 北海道上川総合振興局旭川建設管理部道路課主査 (都市整備) 小橋 信一氏 旭川市土木部次長 鎌田 昭範氏</p>
欠席者	山田 直人氏
会議資料	第2回 買物公園のあり方検討会議
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	3名(報道1名)
会議内容	
1 開会	
2 議事	
(1) モビリティの試乗について	
座長	まず、本日の会議前に行った電動キックボード走行体験会について、事務局から説明を受けることにする。
事務局	(事務局より、会議資料(P1～P2)に基づき、説明を行った。)
座長	走行体験会には私も参加したし、参加者の方にも多数、参加いただいたところである。ぜひ、参加した方からの感想を伺いたい。
参加者	<p>大人が乗る分にはとても快適だった。もっと慣れれば、更に快適に乗ることができると思う。</p> <p>基本的には、ヘルメットの着用や免許の保有など、法律の規制があることにより、今回のように安全に運転できると思う。7月に法律が改正されて、ヘルメットの着用が努力義務になると聞いたが、運転の際には、最低限、関係する法律の内容を知らなければ少し危ないという感じがした。</p>

参加者	<p>自転車と同様、電動キックボードは車両扱いとなり、車いすと同様に歩行者扱いとなる電動車いすとは異なり、買物公園では乗れないというのが現状である。</p> <p>実際に電動キックボードに試乗して、楽しかったと感じた反面、危ないとも感じた。7月に法律が改正されることもあり、乗っている人自身だけではなく、歩行者、特に高齢者や、ベビーカーを押す子連れの方などの危険が増すため、電動キックボードを歩行者天国である買物公園で導入することは難しいと思った。</p>
参加者	<p>電動キックボードで片側2車線の道路を走ったが、初めてであったため、緊張する感じがあった。信号で止まったときに、大型のバスなどの車両が後ろにつくと威圧感があった。</p> <p>運転については、走る場所にもよるとは思うが、慣れが必要であると思った。</p>
参加者	<p>風を感じられて気持ち良かった。一方で、少し怖いとも感じた。</p> <p>ウインカーやブレーキ、速度の調整などの複雑な操作が多く、その操作には指を使うので、手が小さな女性などは操作が間に合わず、1度止まってしまい、蛇行してしまうということもあった。</p> <p>車道を走ったときには、車の運転手が気を使ってくれていたのか、電動キックボードの列を避けて隣の車線を走行していたことから、車側の通行に影響を及ぼしたように感じたので、専用レーンが必要だと思った。</p> <p>また、歩行者を追い越したとき、歩行者がすごく驚いていたので、電動キックボードに乗る人が大型車が怖いと感じるように、歩行者にとって電動キックボードは怖いと感じられるのと思った。</p> <p>走行するのであれば、公道よりは、例えば河川敷のような、信号がないところを一定の速度で走行するのに適した乗り物であると思った。</p>
参加者	<p>普段、自転車で車道を走ることが多いが、電動キックボードも自転車とほぼ同じような乗り方であると感じており、自転車と同様、マナーを守り、車線変更時や右折時など、しっかりと安全を確認して運転すれば問題のない乗り物であると思った。</p> <p>電動キックボードや電動自転車など電動の乗り物については、足を使って自分の力でスピードをコントロールするものとは違い、突然スピードが上がってしまう、止まろうとしたつもりが逆に発進してしまうことなどもあり、慣れていなければ事故につながりやすいということは事実としてあると思うので、例えばサイクリングロードなどであれば、気持ちよく走ることができると思う。</p> <p>歩道を走行する際には、歩行者にとって危ないということであれば、自</p>

	<p>転車も同じように危ないものであり、自転車も電動キックボードも同様、例えば歩行者を追い越すときには声をかけるなど、マナーが浸透していけば問題なく乗れると思った。</p>
座長	<p>良かった点として、風を切って走ることができ、すごく気持ち良く感じたことが挙げられる。フラットな旭川のまちには、とてもマッチしている乗り物であると感じたことから、今回の法改正などをきっかけに、電動キックボードが使えるようになると、乗る人が増えるのという気がした。</p> <p>一方で、旭川のまちの中で、電動キックボードに乗る人が増えてきたときに、どのように対処していくのかについて考えなければならぬとも思った。</p> <p>東京都内では、小型の電動キックボードがとても増えている。感覚的には、あつという間に増えたという感じである。</p> <p>旭川でも同じことが考えられ、新しいモビリティが普及してくると、それに沿った交通ルールも普及させていく必要があり、その中で、買物公園ではどうしていくかについて考えなければいけない。</p> <p>旭川は、比較的、道路網がしっかりと区画されており、自転車の走行レーンも青い矢羽根で表示されている。このような基盤が整っており、電動キックボードについても普及が進む可能性がある。</p> <p>これから、いろいろなタイプのモビリティに対処する必要が出てくると思う。7月1日には、WHILLと電動キックボードの体験会も予定されているが、このような取組などを繰り返しながら、どのような形のモビリティプランを考えていくか、買物公園だけではなく、市内全体について話し合う必要があると思う。</p>
(2) 前回会議の振り返り	
座長	<p>次に、「前回会議の振り返り」について、事務局から説明を受けることとする。</p>
事務局	<p>(事務局より、会議資料(P3～P4)に基づき、説明を行った。)</p>
座長	<p>「アジャイル」という言葉は、なじみのない言葉であるかもしれないが、社会実験など、まずはいろいろなことをやってみて、その中から得られたもの、チャレンジの反省点や成功体験などを踏まえて、新しい方向性を見付けていくことが、確実な成長が見込めない中では、最も効率的なやり方であるといえる。実験を繰り返しながら、アップデートし続けるというのは、そういう意味であると御理解いただきたい。</p> <p>既に、買物公園や7条緑道などでは、いくつかの実験的な取組も行われており、既に始まっていることでもある。</p>
(3) 買物公園エリアの現状について	

座長	次に、「買物公園エリアの現状」について、事務局から説明を受けることとする。
事務局	(事務局より、会議資料(P5～P14)に基づき、説明を行った。)
座長	只今の説明に対して、質問などはあるか。
参加者	<p>ライトな変化や書換えを加えつつ、「アジャイルなまちづくり」を進めていくことはもちろん重要であると思うが、どこを目指しているのかについては見失ってははいけないと思う。</p> <p>買物公園は「公園」という名称が付いており、このエリアを公園にしていくことを大きな目的として設定されてできた場所であると理解しているので、その部分について今後、どうしていくのかなどの議論ができれば良い。</p> <p>私の普段の活動の中で周りの声を聞いていても、道路であることの限界について強く感じているところであり、公園であれば、皆様がやりたいと思っているさまざまなことが実現できるのと思っている。</p> <p>具体的にいえば、エリアプラットフォームのエリア設定では、駅前を入れるかどうかという議論もした方が良いと思うし、買物公園は、北彩都ガーデンという河川緑地や常磐公園を結ぶ場所として立地的な適性があることから、エリアプラットフォームのエリア設定においても、買物公園を都市政策の軸として、環境政策ともリンクさせて中心市街地を活性化させていくことなどが考えられる。</p> <p>旭川の都市政策において、「自然」というキーワードが入ってくることは必然的であると考えており、そこが買物公園を議論するときの「公園」というキーワードにつながってくるのだが、その部分の共通認識やビジョンについて、この会議の場においてもっと議論をするべきではないか。</p> <p>2000年代のリニューアルや今回の社会実験への動きは、買物公園を道路に戻すような動きとして捉えられてしまい、買物公園を開設した当時の理念をしっかりと受け継いでいるのかについて、後世に問われると思うので、そこはもっと議論が必要であると思う。</p> <p>また、通行量や滞在人口のデータが示されたが、モビリティを入れて通行量を増やすことが目的になってしまうと、それは道路についての議論である。むしろ、買物公園でどのようなコミュニティが形成されているのか。また、それらのコミュニティについて、どこがつながっていないか、どこをつないでいけばもっと滞在時間が増えるかというように、人の活動を調査項目の中に入れることで、通行量などの客観的な指標と結びつけて課題を整理することができるのではないかと考えている。</p>
座長	質的なことを反映できないかと考えている。

	<p>横浜では、「幸せだと思う場所」、「不幸せだと思う場所」、「健康的だと思う場所」、「不健康だと思う場所」について、スマホで写真を撮りながら、コメントを付けてもらうという調査を行った。その結果を見ると、みんなが良いと思っている場所とそうではない場所が入り混じっていることや、年代や性別によって、まちの評価や感覚的な捉え方に違いがあることが見えてくる。</p> <p>只今の意見については、買物公園においても、単に、多くの人が通っているということだけではなく、どのような目的で人が来て、どのようなことを感じているのか、どのようなコミュニケーションがとられているか、などが分かるような質的な調査の結果も反映させていく必要があるという意見として受け止めさせていただく。</p>
参加者	<p>質的な調査については、数字などには表れてこない「そこにいる人が本当に満足をしているのか」、「幸せに思っているのか」、「目的がなくてもそこにいることができれば幸せな場所なのか」などを捉えていければ良いと思う。</p> <p>周辺の事業主や路面店の方にも話を聞きながら、買物公園にいる人たちの表情や、そこに来る人たちはどのようなことに満足しているのかなどの要素を抽出していく必要があるし、例えば2条通や3条通、ふらりーと、7条緑道など、買物公園内でもエリアごとに雰囲気や魅力は全く異なることから、それらの要素をもとに、エリアごとの魅力についても本質的なものを見極めていく必要がある。</p> <p>また、それらの要素の中には、今後、エリアプラットフォームや未来ビジョンなど、「どのような未来をつくっていきたいか」という最終的なゴールをみんなで共有して描いていくときに、絶対に必要なものがあると思う。</p> <p>また、「回遊性」という言葉が議論の中で多く出てくるが、回遊するだけで良いのかという問題があると思う。回遊性が高いといっても、通勤や通学などのために通り過ぎているだけである可能性もあり、単純に回遊性を高めるといふ議論は意味がないと思う。</p> <p>しっかりとエリアごとの魅力や求められているものを見極めながら議論を行い、そこを回遊するともっと良いことになるということであれば、そこに回遊性を高められるシステムや人、物などを導入していくことができれば良いと思う。</p>
参加者	<p>コロナ禍後に特に顕著なのだが、最近、7条辺りに特に目的もなくふらっと来たり、留まったりしている人が増えてきている。もしかしたら、その人たちはそこに来ることや、そこに来て人とつながることによって幸せになっているのではないかと思っている。</p>

	<p>買物公園全体の回遊性を高めるという考え方もあると思うが、買物公園の中でも、エリアごとに考え方に違いがあり、来ている人も違うことから、エリアごとに質的なものが分かれば、買物公園に必要なものや不必要なものも見えてくると思う。</p>
座長	<p>買物公園エリアで実施されている取組について、イベントが多く開催されている印象があり、イベントを開催しようとしたときに、スケジュール調整が大変なのではないかと感じた。</p> <p>新しいことをチャレンジできるまちにしようと考えたときに、実際に新しいことができる、新しいことを受け入れる余裕があるのか、実感としてはどうなのか。</p>
参加者	<p>買物公園エリアでのイベントについては、旭川まちなかマネジメント協議会において、毎年、3月から4月までに買物公園で実施予定のイベントを把握した後、5月にイベント検討会を開催して、市の土木部と警察署のアドバイスを受けながらイベントの日程調整などを行っている。</p> <p>現状では、スケジュールが厳しいとは感じていないところであり、特に、9月以降はイベントが少ないので、その時期にさまざまなイベントを入れて、賑わいづくりに取り組んでいるところである。</p> <p>また、新規の事業については、警察から承認をもらうまでに苦労するというのが実状であることから、新規のイベントを立ち上げる際のサポートとして、単独ではなく既存のイベントと合わせて開催した方が良い、実行委員会を作って開催した方が良いなどの助言を行っているところである。</p>
座長	<p>実態として、新規のイベントの参入に対する障壁はあるのか。</p>
参加者	<p>公園ではなくて道路という特性があることから、警察としても、どうしても厳しくなってしまう状況であると考えている。</p>
参加者	<p>買物公園の全長を全て使って行われるイベントは、特に大きなイベント以外には、ほぼない状況である。また、そのような大きなイベントは、開催される時期が事前にわかっているため、その時期を外してイベントを組むことは可能である。</p> <p>また、例えば7条でイベントが行われていたとしても、5条や6条は空いているというように、スペースやスケジュールとしては参入の余地は十分にある。</p> <p>しかし、新規での申請が難しく、事前相談に2～3か月ほどの時間がかかることもあり、やろうと思いついたとしてもすぐには開催できない。現状では、既存のイベントに組み込んで一緒に行くなど工夫しているが、事前の相談などをスムーズに行うことができるよう、仲介役のプラットフォームをつくるが必要になってくると思う。</p>

	<p>スケジュールを見ると多くのイベントがあるように見えるが、市民からは、「何もなくて寂しい。」という声が多い。</p> <p>運営側の視点でいうと逼迫しているのだが、市民の視点でいえば、自分たちで楽しみを見つけるというよりは、楽しませてくれるものがあるから外に出ようという感覚の人が多く。イベントがあると外に出るが、イベントがなければ寂しい。だが、自分たちがやるのではなく、誰かにやって欲しいと思っているような状況であることから、上手くみんなが連携して、常に何かが行われている状況をつくっていくにはどうしたら良いかということについては、今後の課題であると思う。</p>
参加者	<p>例えば、まちなかぶんか小屋では、イベントが毎日のように行われており、イベントを行うスペースを求めている人はそれなりにいると思うが、そのような場所が買物公園にはあまりないというのが現状である。</p> <p>道路のスペースもそうだが、街区側のスペースについても検討していくことは、エリアプラットフォームだからこそできることだと思うし、そこは戦略的に考えていく必要があると思う。まちなか文化小屋のような、イベントを行うスペースを増やしていくということをビジョンとして掲げていくこともできると思う。</p>
参加者	<p>まちなかぶんか小屋以南には、イベントを行うことができる場所として、アッシュアトリウム、フードテラス1階のフロア、2階のギャラリースペース、旭川はれてがあるが、そのほかにはあまり見当たらない。</p>
座長	<p>全てのことをまちが抱え込んでやっていくというイメージなのか、それとも、自分がもっと関わりたいと思う人を積極的に受け入れる体制をつくっていくのかについては、エリアプラットフォームのあり方についても関わってくる大きな問題である。</p>
参加者	<p>観光に関わる立場として、せっかく旭川に来てもらったのであれば、旭山動物園に行き、駅前で買物して、そのまま帰ってしまうということでは、やはりもったいなく、ぜひ、買物公園を端から端まで歩いてもらい、例えば7条緑道の雰囲気味わいながらお茶を飲んでもらうなどしてもらいたいと思う。</p> <p>そのためには、やはり回遊させることが重要であり、回遊するためのインセンティブになるものが何かを考えていく必要がある。それは手段であるモビリティの問題かもしれないし、買物公園にあるもの自体の魅力の問題かもしれない。また、回遊がしやすい環境をつくることによって、新規のお客様、これまで来たことのなかったお客様を呼べるきっかけづくりにもなるので、やはり回遊性も重要な要素であると思う。回遊性を高めるための手段や方法を模索する必要があると思う。</p>

座長	観光という視点を入れた場合には、また、違った見え方がすることがあると思う。
参加者	<p>観光に関連して、ホテルに宿泊されている観光客の方が、朝、出発までの空いた時間に散歩をして朝市に寄るなどしている。また、夕方については、旭山動物園や富良野などに行った人たちがホテルに帰ってきて、空いた時間に8条にある「手の噴水」まで来たりしている。</p> <p>「手の噴水」で噴水が出ている時間帯は、現行は10時から15時までであり、それを9時から16時までで延長する要望を出している。「手の噴水」の近くには、花のポットやオープンテラスを集中的に置くなど憩いの場となるよう工夫しているところであり、噴水の時間を延長することにより、観光客の方などに、よりくつろいでもらうことができると思うので、噴水の時間の延長については、引き続き、要望を行っていきたいと考えている。</p>
(4) エリアプラットフォームについて	
ア 他都市の事例紹介	
座長	次に、「エリアプラットフォーム」について、事務局から説明を受けることとする。
事務局	(事務局より、会議資料(P15～P21)に基づき、説明を行った。)
座長	他都市の事例について、エリアプラットフォームの事例はほかにもあると思うが、今回、紹介した事例は、どのような理由や基準で選んだのか。
事務局	<p>場所というよりは、取組の種類で選んで紹介した。</p> <p>エリアプラットフォームについては、「共有」が1つのキーワードになると思うが、「空間の活用・共有」、「取組・サービスの共有」、「情報支援の共有」という3つの視点に注目して選び、紹介したものである。</p>
参加者	<p>エリアプラットフォームについては、できたばかりのものがほとんどであり、新しい事業であることから、形が見えていないのが実状であり、どこも手探りであると思う。そのような中、今回、紹介された事例については、どの事例も、事業をしっかりとやっているという印象がある。</p> <p>例えば、私が関わっている埼玉県朝霞市では、エリアプラットフォーム自体が事業体になるのではなく、承認機関という形態を取ることについても考えながらつくっているところである。</p> <p>これから「どのようなやり方が一番合うのか」、「それぞれの部分が役に立つのか」などを考えながら進めていけば良く、必ずしも、今、紹介された事例の枠組にとらわれる必要はないと思う。</p> <p>新虎の道路の活用についての事例では、新しくイベントに参入することが難しい中、「誰でもイベントをやっていける仕組みをつくっていかなけれ</p>

	<p>ばならないのではないか」という視点で、エリアプラットフォームにする意味や、皆様にとってのメリットがはっきりしているため、参考になると思った。</p> <p>いずれにしても、エリアプラットフォームについては、重たく考えすぎず、「やりたいところからやっていく」という形が良いと考えている。</p>
参加者	<p>紹介されたエリアプラットフォームの事例の中には、未来ビジョンを策定している事例と策定に向けて検討中という事例がある。</p> <p>どのようなまちにしていきたいかという未来ビジョンが先にあり、その未来ビジョンに対応するエリアプラットフォームをつくるものなのかと思っていたが、未来ビジョンを先に策定しない場合については、どのようにしてエリアプラットフォームができあがってきているのか。</p>
事務局	<p>池袋の事例では、未来ビジョンを策定する前にエリアプラットフォームの形を先につくっている。</p> <p>これについては、これまでも社会実験や実装などを繰り返し、各種団体がそれぞれ活動しながら、課題の解決に向けた取組を進めてきたところであり、エリアプラットフォームという組織をつくり、より強固に課題を解決し、その先の未来ビジョンに向けた取組を推進していくという考え方で進めているという事例である。</p>
座長	<p>従来のように、皆がばらばらに活動するのではなく、いろいろな団体や立場の人が入ったエリアプラットフォームをつくり、そこで共通の意見は何かということ議論していくという認識で良いと思う。</p>
参加者	<p>エリアプラットフォームを構築する際、既存の組織があると思う。</p> <p>旭川でいえば、旭川まちなかマネジメント協議会や、旭川まちづくり株式会社があるが、エリアプラットフォームを構築する際、既存の組織を再編、整理するものなのか、それとも新しくつくっていくものなのか、いずれにしても、地域の事情に合わせて行うべきだと思う。</p> <p>もし、再編するとなると大変なことだと思うが、そのような議論を旭川で行う場合、どうやって進めていけばいいのか。そもそも、この会議ではどのように想定しているのか。</p>
事務局	<p>組織のつくり方について、他都市においては、それぞれ地域の課題に応じて組織をつくっていると思う。本検討会議における方向性について、すぐに結論は出せるものではないが、本検討会議での議論を重ねていく上で、旭川に合ったエリアプラットフォームや組織づくりがあると思う。</p> <p>今後、本検討会議の場で、「旭川のエリアプラットフォームはこのような組織が良い。」ということイメージしながら意見交換を進めていただくことができれば、自ずと組織すべき形が見えてくると考えている。</p>

イ 各参加者のイメージするエリアプラットフォームについて	
座長	<p>エリアプラットフォームといっても、まだ分からない部分もあると思うが、例えば、「どのような人に参加してもらった方が良い」、「どのようなことを実現できる団体が良い」など、断片的でも良いので、皆様からコメントをいただきたい。</p>
参加者	<p>この会議の場で、「何をつくって欲しい」、「何があったらもっと便利なのか」など、個の意見を抽出して、1つの形にまとめていくことは難しいことであると感じたが、この会議の場をつくっていただいたおかげで、他の事業者の方がどのようなことをしているのかなど、普段、見えない部分についても知る事ができた。</p> <p>買物公園については、5年後や10年後、また20年後についてもあり続けてほしいと思っている方は多いと思うので、この会議でプラットフォームができて終わりということではなく、会議が終わってからも、必要に応じて意見交換をしながら、皆様が持つ熱量を持続させていくためにどうしたらいいかを考えていければ良いと思う。</p> <p>今回、量的なデータを示していただき、参考になった。また、プラットフォームをつくっていく中で、質的な調査が必要だという話も出た。買物公園にいる事業者からすれば、課題は常に感じており、例えば街頭でインタビューをして、たまたま抽出した100人のうち、8割の人が「買物公園が素晴らしい」という調査結果が出たとしても、それで終わらせて良いものなのかと感じるし、その結果から考えるべきことは多いと思う。</p> <p>エリアプラットフォームの構築について、この場には、現状の買物公園を寂しいと思っていない人も多いので、現状をもっと良くしていくためにはどうしたらいいかについて議論しながら、エリアプラットフォームのフォーマットができあがってくると良いと考えている。</p>
参加者	<p>買物公園の素晴らしいところは、例えば100年以上続いている歴史のある会社やお店などがある一方で、若い事業者も新たに参入できる場所だと思う。北海道第2の都市の中心部で、年数の浅い事業者を受け入れてくれる懐の深い先輩たちを尊敬している。そして、その先輩たちが、多大なエネルギーと多くの人を使って、買物公園という形をつくったということについても、尊敬の念を持っている。</p> <p>私が所属する商店会にも、100周年を迎える会員もいれば新規の会員もいて、「何をすれば会員たちの恩恵になるのか」、「会員たちに何を返していけるのか」について常々考えている。そのような中で、エリアプラットフォームの構築ということについても、テーマが大きすぎて、何をしたらいいのかが分からないというのが現状である。</p>

	<p>この会議には、専門家や警察の方などの関係者や開発局の方も参加している。先ほど、「許可が取りづらい」という話もあったが、明るい未来を考えながら、「具体的に何かをしたいと考えたとき、具体的に何をしてもらえるのか」など、具体的なやり取りを重ねながらエリアプラットフォームづくりを進めていきたいと考えている。また、この会議でできたつながりは、会議が終了して終わるものではなく、若い方をはじめ、今後いろいろな方と関わっていくチャンスがあると思っている。</p> <p>また、買物公園は、南側と比べて、北側には一軒家が多く、老朽化が深刻になってきていると感じている。その中で、老朽化した建物や土地をいかにスムーズに継承できるかということについて、エリアプラットフォームに期待している。例えば、引っ越していく高齢者や地主の方に、その費用等を斡旋できるような仕組みなど、建物や土地や事業の継承がスムーズにできるような内容もエリアプラットフォームに組み込まれていくと、もっとチャンスのある買物公園になると考えている。</p>
参加者	<p>今、話が出たような不動産関係のマッチングはおもしろいと思った。</p> <p>現状では、4条から北側に進むほど古い建物や、なくなっていく建物が多いと感じる。それは翻すと、可能性がたくさんあることだと感じている。駅周辺については、大きな建物やビルが増えてくるため、変えていくことはなかなか難しいかもしれないが、北側については、今後、市が干渉していったり、エリアプラットフォームでできるような取組が上手く回っていけば、将来的には新たな魅力を創出できると感じたので、非常におもしろいと思う。</p> <p>私がこの会議に参加しているのは、旭川市民として買物公園をどうしていきたいかというイメージをつくっていきたいという考え方がベースにある。観光客や、旭川に来られる人の視点も忘れてはならないと思うが、長期的に中心市街地をどのようにしていくのかについて、そこに住んでいる人たちが魅力を感じることができる形でなければ、活性化させていくことは難しいと思う。</p> <p>この会議の参加者は、それぞれいろいろな立場などがあり、「誰に向けて、どんな風に未来ビジョンを策定していくのか」、「どこに目的があるのか」、「誰のためにあるのか」という気持ちをもう一度、掘り下げていくことができれば良いと思う。</p> <p>旭川市民以外の方の利便性なども忘れないようにしたいと思いつつも、旭川市民が楽しめるような、価値を見出せるような買物公園にしていきたいと改めて思ったところである。</p>
参加者	<p>先日、家具の業界では、旭川デザインウイークの中で、旭川家具にもつ</p>

	<p>と魅力を感じてもらおうという趣旨のイベントを行った。旭川市民が旭川デザインウィークを知らないということがあるため、そのイベントの中で、一般市民向けに旭川家具のショップを案内するというツアーを行った。</p> <p>参加者からは、「家具についてよく知らなかった」、「デザイン都市といいながらも、デザインとは何なのか」、「デザインは自分の日常に関係ないものだと思っていたが、意外と身近に存在していることを実感し、もっと知りたいと思うようになった」という意見があった。このように、買物公園についても「知ってもらおう」ことは重要だと思う。</p> <p>旭川デザインウィークは、毎年6月に開催しており、本州から訪れる観光客も多いことから、そのタイミングで、例えば、市民と観光客向けに、歴史ある買物公園を知ってもらうためのツアーを行っても良いと思う。</p> <p>そこで買物公園の歴史を紹介しながら、買物公園を利用している人の意見を直接聞く機会などを設け、それを毎年行うことにより、「今の時代にはどのようなことが合っているのか」についてその都度、継続的に声を聞いていくことができれば良いと思う。</p> <p>また、統計データを見ると、建物の配置がエリアごとに分類されているように見えたので、この特性を生かし、例えば、緑道のエリアは「日常を見てもらうところ」、旭川駅の周辺は、建物が入れ替わっており、「最新の旭川を見ることができるところ」など、エリア分けをして、それぞれ良いところを見せていくことができれば良いと思う。</p>
参加者	<p>エリアプラットフォームについては、とても難しいものであると感じており、自分の中で具体的なイメージができていないということが正直なところである。本検討会議で、皆様の意見をまとめることは難しく、それに加えて、いろいろな方の熱い思いや意見、課題などがあることから、何を指すのか、目的をどのように設定するかを絞り込んでいくことについても、とても難しいと感じている。</p> <p>また、皆様の意見を聞き、買物公園を1つにくくることは間違いではないかと感じており、区画ごとに、良いところや課題、それぞれの思いがあるということも感じた。これらについては、これまで我々がイメージしていたものとは異なるものであり、住んでいる方や、実際に事業をされている方の声を聞くことが大事であると改めて感じた。</p> <p>皆様の意見を聞き、いろいろなことが複雑に絡み合う場合などには、誰かが音頭を取っていかなければなかなか進めづらいことだと感じた。また、自分の立場で何かできることがないかと考えたとき、誰かが単体で取り組んでいくことも難しいと感じた。そのようなときに、エリアプラットフォームを組織することにより、行政をはじめとする様々な団体と連携し</p>

	<p>て進めていけば良いと思うし、様々な立場の団体をエリアプラットフォームの組織の中に組み込んでいけたら良いと思う。</p>
副座長	<p>エリアプラットフォームが何を目指していくべきかについて、皆様から多くの意見をいただけたことのできたと思っている。</p> <p>エリアプラットフォームにおいて、多様性を重視していくことについて、その場をまとめていくディレクターのような方が必要である。チームワークを発揮していく中、さまざまな意見が出てきたときに、受け入れるだけでなく、それぞれを組み合わせるアレンジを行っていく。あるいは、1つの方向で意見を受け入れて、それを問題がないように捌いていくことだけでなく、出されたアイデアを双方向で議論できるようにしていけるような方が必要である。どのような人が、ディレクターを担っていくのかという人物像を議論していく必要がある。もしかしたらこの会議の中にいるのかもしれないし、現在、すでに現場で活躍されている方々と並走しながら、育っていくかもしれない。</p> <p>また、買物公園を長いラインとして見たときに、その1km強の距離を一体的に全面的に使っていく、合意形成していくということは、どうしても難しい。買物公園に隣接する通りも含めて、面として、自分ごととして考える人が少ない。少し横に入ると、「自分たちは別の関わり方をしているから」と考える人もいて、買物公園の利活用で恩恵を受けていたとしても、協力してもらえない状況では。そういった方々にもう少し協力してもらえると、市民が物足りないと感じることはなくなると思う。</p> <p>まちの声を聞く上で、人材の発掘も含めてエリアプラットフォームへの参入を促すことは、線としてではなく、面としての関わりを持つきっかけになると思う。</p>
参加者	<p>私はランドスケープを専門としており、この会議では、「緑推し」をしようと思っている。買物公園のコンセプトをしっかりと考えていくことが重要だと思っており、公園というものをどのようにつくっていくかということが、全体をくくる1つのテーマであると思う。</p> <p>公園の中に、さまざまなコミュニティが絡み合い、多様なまちを形成していく、常磐公園、買物公園、北彩都ガーデンという3つの公園が、都市の軸をつくっているという中に、買物公園も存在しているということが良いと感じる。</p> <p>また、都市を緑化していくことと同時に、都市の建築物を木質化していくことも、旭川ならではのあり方であると思う。現在、林産試験場でも、CLT（Cross Laminated Timber：直交集成板）という、ビルを建てられるような木材を使った研究が行われているところであるが、木材を使う文化</p>

	<p>があり、家具からスタートした旭川ならではのあり方を、建築や都市に展開していくことが、デザイン創造都市の次のステップにもなると思う。</p> <p>そのように捉えていくと、買物公園とデザイン創造都市という部分をうまくかみ合わせ、連携し、協働していくことが1つのビジョンになり得ると思う。例えば、木材を生産している人も、森を管理している人なども買物公園で活動できるような機会をうまくつくることができると良いと思う。自然という旭川の都市のイメージを買物公園を中心につくっていくことができれば、都市の象徴的なものにもつながっていくと思うし、買物公園には、そのようなことができるポテンシャルがあると考えており、期待している。</p>
参加者	<p>ようやく、エリアプラットフォームの意味が分かってきた気がする。さまざまな実施主体をまとめるものをこれからつくっていくことだと理解している。</p> <p>デザイン創造都市に関連して、旭川デザインウイークでは「まちなかキャンパス」が開催されたところであり、まちの中に学生がいることは大きなメリットだと思う。まちの中に、イベントとしてのキャンパスがあるのではなく、学生が、常時いる場所をつくるのが大切だと思う。</p> <p>以前、旭川に東海大学があったとき、東海大学の学生たちや先生たちは、すぐに何かをつくり、すぐに設置していた。いわば「つくって置いてしまえ」という感じであった。</p> <p>議論はもちろん大事なのだが、議論だけではなくて、そのようなことを買物公園や常磐公園などの中心市街地でできるようなエリアプラットフォームをつくり上げていくことが望ましいと考える。</p>
参加者	<p>本検討会議に旭川まちづくり株式会社や買物公園企画委員会からの参加者がいないことについて、物足りなく思う。</p>
参加者	<p>エリアプラットフォームについて、新虎の例を見ると、いろいろな人が入っており、関わっている人が多いと感じる。</p> <p>エリアプラットフォームがあまりにも巨大になりすぎると「アジャイルなまちづくり」になっていかないと感じる。最重要課題として、何を解決するためにエリアプラットフォームをつくるのかということをベースに考えていかなければならない。</p> <p>「あれもこれも」という感じになってしまうと、実はそれほど関係がないような団体も入ることになり、却って動きづらくなることも考えられるため、よく議論して考えていく必要がある。</p> <p>また、プラットフォームを運用していく際には、設立当初からエリアプラットフォームに入っている団体と、例えば設立から数年後にエリアプ</p>

	<p>ラットフォームへ入る団体では、どうしても熱量や温度差があると思うので、そこを上手く保っていくことができるように、どのように工夫していくかについても考えていくことが重要である。</p>
参加者	<p>まちで学生や子どもたちを育てていく要素も必要だと思う。例えば旭川市立大学に新たに設置される学部について、「部活動やアルバイトなどの活動を全て捨てても旭川のまちづくりのために、この学部に入りたい」と思ってくれるような学生を、大人たちが育てていくという覚悟があれば、次のまちの担い手が育っていくと思う。</p> <p>そして、いろいろな分野の人が、同じ机で仕事をするのが大切だと感じている。この会議のように、いろいろな分野から参加されている皆様と会議をすると、知らなかったことや新たな意見に気付くことができる。また、道路の使用申請を例にとっても、もし、1つの机に、警察と市の土木や地域振興などの関係課が一行に並んで居れば、申請は1回で済むということになる。同じ机で仕事をするにより、「このイベントは、この部局とこの部局が机を付けて協力してやってみよう」、「この申請については、あの窓口に行けば、1日で全ての書類をチェックしてくれる」というようなことになれば良いと思うし、少数精鋭でも良いので、自発的に活動する人がエリアプラットフォームに集まれば、上手く実用的に動いていくと感じた。</p>
副座長	<p>今後、参加者の皆様が、行政側が主催する公式な会議の場以外にも、勉強会などを開催していくことができれば、参加したメンバーが徐々に積み上げられ、チームがつくられてくると思う。</p> <p>そのチームの側から行政側を呼ぶような形で意見交換を行うことができれば、違ったアイデアの出方もあると思うし、こうした両輪の体制で進めていくことができれば、より良い議論を行っていくことができるだろう。</p>
座長	<p>基本的には、買物公園という公共空間をどのように使っていくのかということが中心となる課題だと思う。その課題に対して、さまざまな問題を解決していくときに、必要とされる方々にエリアプラットフォームへ入っていただく必要がある。ただし、入っていただく方々については、単なる傍観者ではなく、「プレーヤー」として、しっかりと関わっていただける方々に入ってもらうことが重要である。</p> <p>また、どのような権能を持ち、どのようなことができるエリアプラットフォームであるべきかについては、本日も他都市の事例が紹介されたが、都市によって多様なあり方がある。旭川においても、買物公園やその周辺に必要とされる役割をエリアプラットフォームで担っていけるようにしていけば良い。</p>

	<p>答えはいろいろある中で、最終的に答えを1つ見つけていくことがポイントであり、その前提条件として、これまでの取組から一歩進んだ新しい変化を作り出していく実験など、「アジャイルなまちづくり」として、新しい取組が許容されていくようなエリアプラットフォームが必要であると思う。</p>
(5) 今後のスケジュール	
座長	<p>次に、「今後のスケジュール」について、事務局から説明を受けることとする。</p>
事務局	<p>事務局から今後のスケジュールについて説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は、7月28日(金)の14時からを予定 ・場所は、今回と同様とすることを予定
3 閉会	